

善

Ħ 次

- 1. コロナ禍で苦しむ企業を支えた地域金融機関
- 2. 地域銀行の経営環境

- 3. ポストコロナでの地方銀行の進むべき道
- 4. むすび

コロナ禍において取引先企業を支援する地域金融機関の役割の重要性が示された。しかし、地域金融機関は、 超低金利や地域経済の縮小といった構造的な課題に直面しており、顧客との密接な関係性を武器にして事業性評 価能力を強化し、幅広いソリューションを提供するといった方向で進もうとしている。注意すべきは、事業性評 価によって顧客との信頼関係を築かないと、幅広いソリューションの提供は難しいということである。

1 コロナ禍で苦しむ企業を支えた地 域金融機関

(1) 貸出による資金繰り支援

2020年はコロナ禍の急速な広がりで多くの企 業が業績の急激な悪化に苦しんだ。企業の資金繰 りの状況をみるために、日本銀行「短観」の資金 繰りDIの推移を大企業、中堅企業、中小企業に 分けて示したのが、**図表**1である。2020年に資 金繰りDIは急激に低下しており、コロナ禍によ って資金繰りが大幅に悪化したことが分かる。こ れは大企業でも中小企業でも同様であった。

ただし、図表1にはグローバル金融危機の時期

(2007~10年ごろ)の資金繰りDIの変動も描い ているが、それと比べるとコロナ禍における資金 繰りの悪化の度合いは小さいことが分かる。これ は、コロナ禍での資金供給が非常に積極的に行わ れたからである。すなわち、2019年9月末と 2020年9月末を比較すると、国内銀行の貸出額 (日本銀行調べ:銀行勘定、信託勘定、海外店勘 定の合計)は、中小企業向けが4.3%増の374兆円、 中堅企業向けが0.4%増の12.6兆円、大企業向け が8.7%増の150兆円となっており、1年間で貸 出残高は合計で28兆円も増加した。一方で、リ ーマンショックが発生した2008年9月から2009 年9月の1年間に大企業貸出は11.6%増加してい



家森 信善(やもり のぶよし)

神戸大学経済経営研究所教授。名古屋大学教授などを経て、2014年より現職。経済学博士。 専門は、金融システム論。これまでに、中小企業研究奨励賞・本賞(2005年)などを受賞。 現在、日本金融学会常任理事などの学会役員のほか、金融庁参与、財務省財政制度等審議 会専門委員、中小企業庁中小企業政策審議会臨時委員、地域経済活性化支援機構社外取締 役などの公職を務めている。Journal of Banking and FinanceやJournal of Financial Intermediationなどの海外学術雑誌に多数の論文を発表している。